



おおらかに心地よくリノベ

しおたに・まさひろ／1982年、石川県出身。京都精華大学デザイン学部建築学科を卒業後、大阪府内の不動産会社で設計を担当。2015年に㈱アートアンドクラフトに転職し、18年から同社沖縄事務所。一級建築士。趣味はD.I.Y。

◆㈱アートアンドクラフト沖縄事務所
北中城村喜舎場1066 SPICE MOTEL
OKINAWA内 ☎098-975-8090

フリーぺーパーで新提案

施工事例や街の紹介など



アートアンドクラフトが発行しているフリーぺーパー「AC PAPER」

アートアンドクラフトでは、不定期でフリーぺーパー「AC PAPER」を発行している。内容は、同社によるリノベーションの事例だけでなく、不動産の活用事例、街の紹介、働き方と住まいの関係など多岐にわたる。

塩谷さんは「さまざまな話題を通して、新たな考え方を提案しています」と話す。沖縄事務所に近い、ライカムや普天間、コザ地域を取り上げたものもある。

同冊子は県内各地のカフェなどで配布しているほか、同社ホームページ(<https://www.a-crafts.co.jp/>)でメンバー登録しておけば毎号送付してもらうことも可能だ。登録は無料で、7月には最新号を発刊予定。詳しくは同事務所(電話=098-975-8090)。



塩谷 昌洋さん (株)アートアンドクラフト沖縄事務所
一級建築士

住宅やアパートなどのリノベーションを専門に手掛ける㈱アートアンドクラフト沖縄事務所(本社・大阪)。建築士の塩谷昌洋さん(38)は「建物の古さを個性や魅力として捉え、上手に活用できるように提案します」と話す。

—なぜ建築士を志した?
中高生の頃から建物が好きで、将来は建築に携わりたいとぼんやり考えていました。

当時、自宅で使われていたかつた和室2間のふすまを取り払い、ソファを置くなど自分で手を加えたりもしていました。そうするうちに、インテリアや住居に興味を持ち始めた気がします。

現在はリノベーションを専

門に設計をしていますが、このときからリノベに興味があったのかもしれませんね。

—心掛けていることは?

使う素材や建物の造りを含めて、「おおらかさ」と「心地よさ」を意識しています。例えば床材として使う無垢材は、傷が付いたとしても、張り替えるのではなく削ればいいというおおらかさがある。足触りは気持ちよく、経

年変化も味わいとなります。また個性を生かすことも心掛けています。リノベは既存の建物がベースとなります

が、同じ物は存在せず、それには個性があります。昔ながらの壁材やタイル、立地ならではの景色など、建物自体が持つ個性が魅力となるため、その魅力を最大限に引き出せるようにしています。

—今後の目標は?

古い建物の上手な活用方法を提案していきたい。沖縄には独特な建築文化があるものの、古い建物はどんどん壊されています。中には「こうすればまだ頑張れたのに」と思えるものもあるので、とても残念だし、心が痛い。

実はこここの事務所も、築50年以上のモーテルをリノベしたもので、ホテルとして運営もしています。以前とは異なる活用方法なども提案しながら、「今ある建物をもつと使おう」という意識を広めていきたいです。
(出崎佳祐)

古さも魅力として提案